

## 豊島・堀船地区教育環境整備協議会（会議の概要）

### 〔仮称〕豊島地区ブロック協議会（第1回）

■平成15年9月6日

■豊島区民センター

#### ■次第■

1. あいさつ
2. 学校適正規模等審議会答申報告
3. 〔仮称〕ブロック協議会の基本的な考え方
4. 豊島・堀船地区の現状
5. その他

### 豊島・堀船地区教育環境整備協議会・幹事会（第1回）

■平成15年10月25日

■豊島ふれあい館第2ホール

#### ■次第■

1. あいさつ
2. 〔仮称〕ブロック協議会設置要綱について
3. 座長選出
4. 幹事会の進め方について

#### ■まとめと発言要旨■

##### ○設置要綱について

- 名称を「豊島・堀船地区教育環境整備協議会」とする。
- 協議会は、16年度末で一定のまとめを行う。

##### ○代理出席について

- 幹事会への代理出席

- PTA会長→協議会委員である副会長に限り認める。
- 町会・自治会長→協議会委員である町会・自治会長に限り認める。
- 中学校長→教頭に限り認める。
- 協議会(全体会)への代理出席
  - PTA会長→役員に限り認める。
  - 町会・自治会長→不可とする。
  - 中学校長→不可とする。

#### ○座長選出

- 座長に豊島二丁目町会・笹目孝蔵会長を選出

#### ○幹事会の進め方について

- 資料等はできるだけ事前に委員あて送付する。

#### ○その他

- 協議会委員はPTA会長等の職について選ばれているので、職を交替した場合は委員も交替する。
- 小学校PTA会長から、小学校関係者を委員に加えるべき、とする意見が出された。この件を含め、協議会委員以外からの意見の取り扱いについて、次回の幹事会で協議する。

### **豊島・堀船地区教育環境整備協議会・幹事会(第2回)**

■平成15年12月13日

■豊島ふれあい館第2ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第1回幹事会のまとめ
3. 今後の検討に向けて
4. その他

■発言要旨■

◎第1回幹事会のまとめについて

- 事務局より説明し、了承された。

#### ○王子第一小学校PTA会長からの意見について

- (事務局発言) 前回傍聴者からの要請を含め、小学校関係者を委員に含めるか検討を。
- 異議なし、全体会に諮ることとする。

#### ○今後の検討に向けて

- 通学距離の目安について、中学校の理想的な距離は？
- (事務局発言) 学校適正規模等審議会答申では、おおむね 1.5 キロメートルとしている。現状全ての学校がクリアしているわけではない。
- 毎日の通学のことだから、問題になるのではないか。
- 日本油脂工場跡地のマンションは、シミュレーションに入っているか？
- (事務局発言) 規模が未定であるので、具体的に数字が出た段階で算入する。
- 通学距離については、区域外から来る子も少数だがいるので、一概には言えない。
- 最初から学校を減らす、ということで話をしているが、1校の適正規模がどれ位になるのかを先に考えるべきだ。
- (事務局発言) 学校適正規模等審議会答申では、望ましい規模として中学校は1学年3～5学級、全校で9～15学級と示されている。
- クラス数が少ないと、運営が難しい。ある程度の生徒数がいないと、行事等も盛り上がらないのでは。
- 資料をみて、どの案がいいとは言えない。結論を出すのは早い。
- 生徒が少なくなった分、部活動が少ない。試合に出られないという現実がある。心身ともに教育する、その両方をやらねば。少ない数でゆとりの教育ができるのは確かだが、クラス数はあった方がいい、その点を検討して欲しい。
- 中学校には10教科あるが、小規模校では全教科に専任教員というわけにはいかない。また、運動部顧問のなり手が少なくなる。学校に入っても希望の部活動がないこともある。適正配置の必要性を感じる。適正規模について、審議会では1学年3～5学級とのことだが、個人的には4～6学級でも良いと感じている。奇数よりも偶数学級が運営しやすい。1校案でも無理な学級数ではないと感じる。必要な教員数を確保できるので、15学級前後が子どもたちにも良いと思う。
- 小学校PTAとしては、これから中学校に進む不安を受け止めて欲しい。スケールメリットがあることは認める。北区の教育委員会の具体的な展開がみえてこない。王子第一小は清至中へ進むが、地下鉄もあり他の中学校へ進学する例もある。規模の議論だけではなく、公立中学校のあり方・教育に対する不安についても議論して欲しい。
- 1学級40名の基準に縛られている。教室は狭いのだし、30人にすればよいのでは？
- 教員数が減ると、個々の教員に負担が増える。教員数の出し方についても問題として組み入れるべきだ。

- (事務局発言)学級編成については、定数は都道府県が決めることで、北区独自に決めることではない。東京都の基準は40人学級であり、その中で多様な学習集団として、少人数授業等を導入している。学級数は教員数に反映する。教員1名雇用すると約1000万円の金額がかかる。現在の法規制の中で、都制度を超えて区独自で配置することは難しい。
- 区の方針として、このブロックに何校というものがあつたら示して欲しい。
- (事務局発言)区として、この地域でも、他の地域でもまず何校というものはない。この地域での望ましい形を考えていただきたい。このままでは活力ある学校にならないと考えている。
- 豊島地域の3校を1校にするのは早い。学区域の見直しは、小学校が絡んでくるので簡単にはいかない。
- (事務局発言)将来的には読みにくい部分がある。大規模開発は把握しなければならない。道路拡幅・日本油脂・JTなどの動向を見なければならないが、開発して倍増はないだろう。都立高改革の中で私立中から公立中へ戻る動きもあるだろう。
- 北区全体では、滝野川南ブロックは中学校2校だが、新町中の小規模化は深刻だ、新町中から堀船中に通うかもしれないことを、距離はあるが視野に入れて考えるべきだ。
- (事務局発言)シミュレーションは、単にこのブロックに2校・3校ではこうなる、ということで、具体的な提案ではない。他の地域では2校案・3校案の内容についてメリット・デメリットをあげているところもある。1校・2校・3校にしたときのメリット・デメリットを皆さんに記入していただいて、次回にまとめたものを示す、ということでいかがか。
- 他ブロックの協議内容や学校経営上の規模に関する資料が欲しい。
- 学区域をしっかりと設定しないと、議論の前提が崩れはしないか。
- (事務局発言)指定校変更制度の中で20%くらいが他の区立中へ移る。保護者は友達関係・通学距離を考慮するので、大規模に動くことは考えられないだろう。自由選択制を導入した区でも、大きな動きではない。現在の20%が大幅に変わることはないだろうと推測している。
- 統合すると、校舎は建て替えるのか？
- (事務局発言)統合校の建て替えについては、第1回協議会説明のとおり。
- 中学校建て替え、新しい施設・新しい設備となると、新しい流れがでてくる。
- 子どものよりよい教育環境を考えなければならない。地元の学校に残ってもらいたいという気持ちはあるので、どこに出来るかは大きな問題だ。

#### ◎ 次回に向けて

- 全体会を開催する。日程は座長と相談のうえ決める。

## 豊島・堀船地区教育環境整備協議会(第2回)

■平成16年2月21日

■豊島ふれあい館第1ホール

### ■次第■

1. あいさつ
2. 検討経過について
3. 協議会の委員構成について
4. その他

### ■協議会の委員構成について■

- (事務局発言)小学校PTAから、中学校のあり方、適正配置の協議に小学校の参加がないのはおかしいとの声があり、幹事会で協議の結果、メンバーとして入っていただくという方向になった。全体会でご承認いただきたい。
- 幹事会のメンバーはどうなるのか。
- (事務局発言)今後小学校関係者と協議して決めたい。
- 賛成多数で承認された。

### ■発言要旨■

- 平成20年度シミュレーションにおいて、王子第一小学校の児童は増えているのに、なぜ清至中学校の生徒は増えないのか。
- (事務局発言)王子第一小学校6年生全員が清至中学校に進学するわけではない。過去の推移・動態から推測すると、この数字になるということ。それぞれの学校の推移とお考えいただきたい。
- 清至中学校は王子第一小学校以外からも来る。それにしても生徒数が足りないと感じる。
- (事務局発言)推計値は過去10年の動向をもとに先5年の動きを見ている。王子第一小学校から清至中学校への動きは、減少傾向にある。
- 豊島地区は王子地区と接しているので、王子中学校へ流れている可能性がある。豊島地区だけの問題ではない。例えば王子中学校の推移はどうなっているのか。
- (事務局発言)王子中学校の推計値は、現状328人9学級から、平成20年度には349人10学級へととなっている。
- やはり王子中学校へと流れている可能性がある。この席は豊島・堀船地区のことを話し合う場なので、あくまで参考意見で、ということ。

- 幹事会では、事務局として「まず何校というものはない、望ましい数を」とのことだが、望ましい形はどういう形か。数字が出ていくとそちらに目がいく。学校の所在地には、防災避難場所などの役割がある。なくなるとどうなるのか、その関連を示して欲しい。
- (事務局発言)平成14年4月、この地区では豊島東小学校を閉校した。現在も地区防災資材置場・一時避難場所ではある。地域の役割を何が担えて、何が担えなくなるのか。学校は地域にとって大きな役割があるが、まずは教育の場であることを前提にして議論をお願いしたい。子どもたちの教育にとって、中学校では一定の規模が必要ということが出発点にある。
- 地域における学校の役割は、統合の学校がはっきりしてきた段階で話をするかと考える。現時点で踏み込むのは難しい。
- 一番気になるのは、通学距離と時間のこと。滝野川第五小学校から堀船中学校まで20分程度かかる。堀船地域には何らかの形で学校が残ることが望ましい。通学方法は、現在徒歩のみだが、遠距離になると自転車通学可とするのか、考えに入れていただきたい。
- 通学距離の点で、1校案は難しいと感じている。
- (事務局発言)通学手段は徒歩を考えている。適正規模等審議会答申に基づいて、通学距離は1.5km程度を考えている。
- 新たな学校の場所は、新たな土地か。
- (事務局発言)適正配置後の位置は、新たな土地は難しい、現在地を活かすことを考えている。
- 通学距離を1.5kmとすると、1校案はなくなるが。
- (事務局発言)適正規模等審議会答申では1.5kmとしているが、地元の要望としてこの基準を超えてもということならば出来る。自転車通学は事故の危惧があり難しいと考える。
- 統合校は建て替えるのか。
- (事務局発言)建築から年数を経ているので、建て替えも要素になる。統合にあたって建て替えるのが前提となる。
- 通学距離や適正配置については2校案に現実味があるかと考える。豊島地区に1校、堀船地区に1校となれば、滝野川第五小学校としては結構なことと思う。豊島地区の町会長・学校の意見を聞きたい。
- 何校が望ましいのか、幹事会としては結論を出していない。あくまでたたき台として示されている。
- 幹事会では、1校案・2校案・3校案いずれもまだ検討の段階である。
- 平成16年度末にまとめることを目指している。今結論を出すのは早い。
- 推計値では、豊島北中学校が単学級になる。としま若葉小学校から他の地域に行く危機感がある。少人数にはメリット・デメリットがあるが、部活が出来ないということは大きな問題だ。子どもたちがやりたい部活がないと、他の地域へ流れる。教育上、平等とはいえない。子供が増えることはない。先々のために、平等な立場で新しい学校作りを考えたい。
- 子どもの進路について、バレ一部・サッカー一部が堀船中学校にないので他校へ進学する。野球ならば新町中学校へいく。それだけ部活の問題は大きい。適正配置は、その辺のことを考えて、適正規模の中学校をつくるのであれば、賛成だ。

- 先の話だろうが、堀船中学校が残ったとして、適正規模となる学級数・生徒数はどれくらいか。単学級ではデメリットが多い、隣の新町中学校は滝野川第四小学校の子どものみがある。例えば、滝野川第四小学校から堀船中学校へ進学、という考えはあり得るのか。
- (事務局発言)全く論外ではないが、原則としてブロックの範囲は審議会で妥当とされたものである。滝野川南ブロックにおいて、新町中学校は田端中学校と協議している。
- 隣接のブロックの動向は無視できないが、王子ブロック・滝野川南ブロックと範囲を広げると議論をすることが難しい。
- 各学校の事情があるから、学校の中で議論して、幹事会に持って行かないと進まないのではないか。
- (事務局発言)各学校や町会長会議等で説明をすべき、ということであればそうさせていた。
- 2校案として、堀船中学校・滝野川第五小学校の関係は残る。豊島の中での通学区域は重要だ。豊島地区から堀船中学校へ学区域を移すことを考えなくてはバランスが悪いのではないか。学区域そのものを検討すべきではないか。
- 学区域の問題は適正配置の中では難しい。学校の選択は自由に出来るのか。
- (事務局発言)学校は自由選択ではない。指定校が存在する。指定校変更制度の中で、国の意向もあり条件を緩和している。その条件を昨年秋に公表した。指定校を変更しやすくなったことは事実。条件が合致すれば指定校変更は可能。
- 堀船中学校には豊島地区からは来ない。推計では、滝野川第五小学校が単学級になる、2-3校案では常に堀船中学校は単独で残ることになるが、中学校2学級では支障がある。他校へ流れてしまうのではないか。自転車通学を考えなくてはならない。
- 現在では何校になるか決まっていない。その点は将来的な課題である。学校での検討を通じて、幹事会で議論を深めたい。

## 豊島・堀船地区教育環境整備協議会(第3回)

■平成16年5月29日

■豊島ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第2回協議会(全体会)のまとめ
3. 幹事会の委員構成について
4. 望ましい学校の数について
5. その他

## ■発言要旨■

### ◎幹事会の委員構成について

- (事務局発言) 幹事会のメンバーに小学校PTA会長6名、小学校校長2名を幹事に加えたい。
- 小学校PTA会長は全員だが、小学校校長2名はどのように考えているか。
- (事務局発言) 滝五小校長には了解いただいた。もうひとりはお出られる先生が出るという話だが、後ほど相談したい。
- 今までの経過から、滝五小は堀船地域になるので、もう1名は豊島地域から出していただきたい。

### ◎望ましい学校数について

- (事務局発言) (学校建設事例の説明) 規模により多少違いはあるが、1校25億円から30億円と考えている。工期はおおむね2年だが、シックスクール対策もあり、多めに見ている。
- これまでの議論を含めて、メリット・デメリットなどの説明をして欲しい。
- (事務局発言) (1校案から3校案の説明) 1校とすると、規模が大きめになる。活力がある、選択肢が多いというメリットはある。18学級が校長にとって経営しやすいかという問題はある。デメリットは通学距離で、どの位置にあっても長い。現在は、自転車通学は許可していないので、徒歩による通学が前提になる。もしこの規模をつくるとすると、敷地上はどこでも可能。
- 歩いて通学して可能と言うことか、理想としている範囲の通学距離か。
- (事務局発言) どの場所に置いても、教育委員会で示す1.5kmを上回る。
- 行政の考える生徒一人あたりの必要な校庭の面積、教室の広さは。指針はあるか。
- (事務局発言) 特にない。
- 校庭・教室の広さについて、現在の広さはどうか。広いか狭いか。
- (事務局発言) 基準は学級数で定められている。教室の面積は明治以来の目安があるが、基準はない。
- 理想値はあるのか。
- (事務局発言) 今のところない。クラスとしての基準は、40人学級を前提として面積を出している。教室について、新たな学校では63~64㎡よりは広めにとっているところもある。小学校においてはオープン型教室など千差万別で、何㎡が正しいのかは難しい話。敷地条件などによって違ってくる。荒川区の新築事例でも、校庭面積は国の基準に達していない。国の基準はあるが、限られた校地の中で満たすかどうかは別問題。
- 新しくつくるにあたって、統合するのならば基準を下回る必要はない。国の基準以上を目指すということでもいいのか。
- (事務局発言) 1校案では、清至中は基準を満たす校庭の確保が難しい。
- 豊島中には心障学級があるので、21学級になる。規模が大きすぎないか。

- (事務局発言) 21学級の運営が学校経営上適切かどうかは、校長の意見はどうか。
- かつて自分が教員の時には30学級の経験はあるが、校長としての立場ではなかったの  
で分からない。
- 通学距離1.5kmをクリアできない1校案は、なくなっていいのではないか。
- 長所・短所を挙げているので、それを出して欲しい。
- (事務局発言) 2・3校案では、今のところ1.5kmを上回っていない。
- 1学級あたりの敷地面積などの基準を示して欲しい。
- (事務局発言) 1学級あたりの基準はない、何学級だと何㎡と決まっている。算定資料に  
ついては次回示す。
- (事務局発言) 適正規模等審議会第一次答申では、中学校について12~18学級が適  
正規模としている。他地区の協議会の中学校長の話では、生徒指導の面で21学級では  
大きいとしている。
- 人数が少ないと部活動がやりにくいという面がある。1校案の通学距離は不可能に近い。  
通学時間がどれくらいかかるのか。自転車通学を認めるにしてもどれくらいの時間になる  
のか。
- (事務局発言) 全ての中学校で自転車通学を認めておらず、教育委員会はその方針を  
支持している。時間がおおむねどれくらいかかるかは、次回示したい。
- 示したものは直線距離であるので、歩いては大変な距離になる。
- 1校案については、ある程度で切り上げてはどうか。
- 2校案についてはどうか。
- (事務局発言) 距離・時間から2パターンを示した。他にも組み合わせはある。通学距離  
については適正距離に近い。3校を1校にすると13学級で適正規模、堀船中が6学級で  
適正規模よりもやや少ない。これをどう考えるか。1つのエリアで大小の違いを活かすとい  
う考えもという意見もあった。
- 小さい学校があってもいいとは幹事の意見か。
- (事務局発言) 教育委員会としては、適正規模を確保することが望ましい。ただ地域の意  
向は尊重していく。
- 学区域についてはどう考えるか。
- (事務局発言) 現在の通学区域を前提としている。実際の統合にはかなり年数がかかる。  
自由選択制導入の動向など、現在のところ何とも言えないが、統合時にあらためて学区  
域を議論していただくことになる。
- 6学級がそのままいいならば、現在の中学校もそのままいいのではないか。
- (事務局発言) 現在の規模が好ましいとは考えていない。活力ある学校のためにはどう  
すればいいかということで議論いただきたい。基本的には適正規模を目指したい。
- 長所・短所を挙げている段階である。メリット・デメリットを出して比較検討していかないと  
前に進まないと思う。
- 堀船中が適正規模を下回る。ならば学区域を広げるという考えはあるのか。
- (事務局発言) 現時点でひとつの方向としてまとまった訳ではないので、堀船中の通学  
区域変更は想定していない。

- (事務局発言) 課題を検討していく中で、位置については少しでもより良い選択をして欲しい。
- 滝五小・堀船小は地域が違って一緒にやってきた。しかし、豊島・堀船へのこだわりが大きいので、地域との関わりという別の見方をもって考えて欲しい。
- 豊島地区は王子中へ流れる子が多い、地域性というのは難しくなっているのではないか。
- 新しい学校を建築する気があるのか、現在の建物を使うのか。私立へは電車を乗り継いでも行く。そういった素晴らしい学校をつくる意気込みはあるのか。
- (事務局発言) 教育委員会としては、ハード面においても新しい学校づくりを目指す。統合してすぐに建つとは言い切れないが、最善の努力をする。
- それでは説得力がない。どういう学校にするのか示されないと、賛成も反対もない。
- (事務局発言) 学校づくりの中身については協議会でお考えいただきたい。その実現に向けて努力する。
- 校数案で議論が長引いた、学校が出来ない、では困る。予算はどうか。
- (事務局発言) 学校改築基金は約40億円、これが原資になる。8カ所で全て新築すると、240億円かかる。北区は240億円すぐに調達できない。跡地を活用して捻出することも考える。60校全てで老朽化が進んでいる。改築の優先順位として、統合校を優先せざるをえない。
- 例えば、4校を1校に統合して、3校の土地を売ればお金ができるのではないか。
- (事務局発言) 統合による跡地を活用しても建てたいという意向は追い風になる。公立である以上、通学の安全確保ははずせない視点ではある。
- お金を有効に使うということを考えていかなければならない。お金はなくとも資産はある。
- 学校の運営にはどれくらいかかっているのか。
- (事務局発言) 1校あたり区の負担は小学校ベースで約1億円程度。ただし、教員の人件費は国と都の負担。
- (事務局発言) 明確なメリット・デメリットが出た訳ではない。幹事の皆さんにシートを送るので、記入していただきたい。

### **豊島・堀船地区教育環境整備協議会・幹事会(第3回)**

■平成16年7月31日

■豊島ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第3回協議会(全体会)のまとめ
3. 望ましい学校の数について
4. その他

## ■発言要旨■

- (事務局発言) (望ましい学校数検討シートの説明)
- 豊島4丁目の日本油脂にマンション740世帯ができて、平成19年度末までに入居するという案が地元で説明された。その他にも豊島7丁目の太右衛門屋敷が167世帯のマンションになる。児童数の予測はどうか。
- (事務局発言) 日本油脂跡740世帯、コスモ石油跡253世帯と把握している。児童・生徒数推移には、740世帯分はとしま若葉小・豊島北中に算入されている。豊島7丁目の167世帯は算入していないが、出現予測としては僅かなものと見ている。
- 大規模マンションができて児童数は爆発的には増える傾向はないとのことですね。
- (事務局発言) 平成20年度の推計値にコスモ石油跡は算入されていないので、若干増えるが、2校案でも問題ないと見ている。
- これから意見が出てくると思うが、1校案でも問題ないのか。
- (事務局発言) 前回言ったとおり、1校案については、清至中を除いて十分な敷地がある。
- 何校にするのかを協議するということによいか。
- (事務局発言) この地域での望ましい学校数、その配置場所、統合を実施する時期という順序で協議するのがスムーズかと考える。学校数・位置・実施時期の後に、地域として望ましい学校づくりについて協議頂きたい。平成16年度末までにまとまったところまでが、この地区のまとめとなる。
- 取りまとまったとして、確実に施行されるのか。
- (事務局発言) 現実的にまとまったとして、平成17年4月の統合は難しいが、そうなったとしたら、できる限り早い実現を図る。建物をいつつくるかは約束できる立場にないが、実現に向けて努力する。
- なぜ王子地区だけがまとまって、平成17年4月統合と流れているのか。
- (事務局発言) 平成17年4月統合を目指す王子地区の協議会で決まり、教育委員会で近く決定して、議会に諮る。最終的には議会で決定される。中学校の適正配置をとということで提示したが、小学校の問題が大きく、小・中統合の話が進んだ。地域の要請が高かったといえると思う。
- 早く決まったところが新築で、後から決まったところが改修など、後から決まると不利になったりはしないか。
- (事務局発言) 前提として、第2次適正規模等審議会答申では、統合にあたっての改築への配慮を求めており、教育委員会としても改築をと考えている。改築するという約束は立場上できないが、まとまれば、それに向けて努力する。統合の先着順ということではなく、建物の状況や、小規模化の進行状況を勘案して、平成16年度末までに改築の順序が検討される。
- この地区の順序が決まっているのならば公開して欲しい。
- (事務局発言) 全体を見て順位付けを考えていくので決まっている訳ではないが、平成16年度末までにまとまらない地区を待つ訳にもいかない。地域の意向を尊重したい。基本

計画の中でどの程度の改築ペースでいくかを示すことになる。基本的には中学校優先の改築で考えている。

- 王子地区は早くまとまったと聞いた。この地区でも早くまとまればまとめていいということか。
- (事務局発言) もちろん結構だが、委員だけの了解ではなく、町会・自治会長会議や学校での説明会を重ねていくことになる。
- 今回の検討シートの意見以上のものはでないのか、そういう意味でも意見を交換していきたい。
- 結論を出しても良い時期まで来ているのではないか。
- (事務局発言) 検討シートに付け足すことはないか検討して、どれが良いのかの方向性を出して頂きたい。
- 個人としては1校案が良いと思う。将来的に堀船中のことを考えても、スーパー中学校をテーマに知恵を絞れば、課題を解決できるのではないか。学校設置基準は、基準とはいえアバウトなところがあるので、どうにかなるのではないか。
- 堀船中の学級数が各学年2クラスと予想されている。2校案で行ったとき、新しい中学校が仮に豊島地区にできると、そちらに流れるのではないか。2校案として、結果、平成20数年に閉じると言うことになりはしないか。
- (事務局発言) 1校では遠くなるという意見は前回でも出た。この地区だけスクールバスを出すのは考えにくい。下校時間がバラバラで対応できない。自転車通学では事故の可能性はある。これを保護者がどう考えるのか。
- 1校当たりの年間管理費でペイできるのではないか。雰囲気ではなく、徒歩通学と自転車通学の事故の確率を示して欲しい。
- (事務局発言) 職員のことだが、徒歩より自転車の事故が多い。地方都市の事例がないかを調査する。
- 今の親に説明して、危険もあるが説明できるのであれば納得できるのではないか。
- (事務局発言) 自転車通学についてのみ議論されているが、むしろ少し遠くても引きつける学校をつくることを考えてはどうか。
- 良い学校なら遠くても来る。
- 王子地区と同じく、この地区でも小中一体化を考えることはできるのか。
- (事務局発言) より緊密な連携を考えているが、いわゆる一貫校は考えていない。
- 1校か2校かどちらか決めてはどうか。2校案としたとき、どちらの学校に行ってもかまわないのか。
- (事務局発言) 統合年次のみ、どちらの学校も可能だが、基本的に自由選択制ではなく、通学区域はある。1校案か2校案か、今日意見をまとめるのには参加委員が少ないのではないか、気がかりだが。
- この場で決めるのはあまり良くないということか。連絡もなく出てこないのはその委員の責任ではないか。委員がそろっていないと決められないのか。
- ムードはブームになって大衆を動かすという言葉もある。早く決めればいい。
- 3校案については、議論は尽くされている。1校案・2校案のどちらかになると思うが。1校案・2校案のどちらかに絞って次回議論をするということでしょうか。

- (事務局発言) 1校案・2校案に足すことがあれば、事務局に意見を出して頂きたい。
- 堀船中では、滝野川第五小の行政区域が違うという問題がある。1校案を論じると、この点を考えなくてはいけない。通学距離が遠くなってしまわないか。
- 次回へのお願いとして、総建築費、ランニングコストを示して欲しい。
- (事務局発言) 学校規模にもよるが、建築費は1校30億円と基本的に考えている。
- 場所はどうか。
- (事務局発言) 新たな敷地はない。現在の学校地で考えることになる。
- 豊島中の校地は国有地だが、買い取るのか。
- (事務局発言) 協議会や地域の意向が決まれば、その実現に向けて動くことになる。
- 1・2校案で検討していくことになったが、現在でも中学校は地域の子どもに入学してもらえようように努力している。色々な理由で指定校変更する子はあるが、魅力ある学校づくりを進めている。心配しているのは、王子地区が早く進んでいて、新しい校舎・新しいシステムがいいと考えるのが当然なので、さらに小学校の子が指定校変更すること。結果的に条件が同じになるような適正配置を心がけて欲しい。

## 豊島・堀船地区教育環境整備協議会・幹事会(第4回)

■平成16年9月11日

■豊島ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第3回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校の数について
4. その他

■発言要旨■

- (事務局発言) 前回までの議論では、1校案・2校案のどちらかには絞っていない。
- 今回欠席した委員について、委任状等の手当てはしたのか。
- (事務局発言) 欠席の連絡は頂いた。特に委任状はもらっていないが、幹事会に委任されているものと受け止めている。
- まとめに向けて進んでいきたい。話し合いの結果、3校案は除外されて、1・2校案が残ったものにとらえている。
- 1校案としたとき、滝野川第五小学校の通学区域から通学する中学校はどうなるか。
- (事務局発言) 調整区域という考え方もある、と以前申しあげたかと思う。統合中学校の場所の方向付けが出来ていない段階で、仮定の話をするのは難しい。

- 区が違って通学できるのか。例えば荒川区の中学校の方が近いとなれば入れるのか。
- (事務局発言) 相手の区が受け入れてくれれば可能だが、地元の区の児童・生徒で一杯の時は、制限校ということがある。例えば西浮間小学校は板橋区からは入れない。逆に志村第四小学校は北区からは入れない。それぞれマンションの建築で人口が増加している地域である。
- (事務局発言) 1校案では滝野川第五小学校をどう考えるかと言うことが大きい。1校案になったとして、豊島中の位置に中学校を置くとすると、2.4キロメートルとなり、適正規模等審議会答申で通学の適正距離とした1.5キロメートルを超えるという問題がある。
- 現状では1校案はその点で無理があるということか。
- 今いる生徒たちに十分な教育をするために、生徒数が少なくて苦労しているというところをご理解頂きたい。統合によって学校が少なくなることは寂しいが、子どもが少なくなると部活動など、何とかしたい状況がある。
- 大きな学校でも、小さな学校でも、お預かりすればその学校の中で一生懸命やる。それに変わりはない。
- 距離的には、2校が理想だろうと思う。距離・地域を考えると、堀船中学校が残っても子どもが減る懸念がある。
- 傍聴者 来年3月までに半年ある。急がなくても良いのではないか。学校ファミリーとの兼ね合いはどうなるか。
- あり方としては、教育委員会が将来のことを考えて適正配置を検討するのは当然だろう。結果としてそうなるのはやむを得ない。機会があるのだから、率直な意見を出してもらいたい。
- 大方の意見は出尽くしただろう。このまま回を重ねてもきりが無い。結論を出しても良いのではないか。
- 案をもっと練ってはという考えと、もう議論は尽くしたという考えがあるが。
- (事務局発言) 議論を重ねてきて、1・2校案のメリット・デメリットを出してきた。これ以上議論の進展があるだろうか。また、いずれの方向性であっても、この先どの場所に学校を置か、いつ統合するかなど検討すべきことはある。
- 校数案はそろそろ決めないと。他地区と比較して遅れている状況だ。遅れば後手後手になっていく。前回の段階で1・2校案の採択になると考えていたが、堂々巡りになっていないか。子どもたちが通学する学校は何が大切か考えると、遠くでは意味がないし、堀船地区に1校、豊島地区に1校として先のことを議論すればいいし、この幹事会で意見をまとめて全体会に示してはどうか。
- 隣の学校がきれいになり、指をくわえてみている子どもを引き留めることができるだろうか。新築の統合校に流れて、堀船中学校が、子どもが少なくなつてだめだとなつたら、学区域を何年後かに見直すということではできないのか。
- (事務局発言) 20パーセントが指定校変更をしている状況であり、これは自由選択制の区よりも大きい変更率。学校再編が進んだ段階で、学区域や自由選択制の問題が新たに浮上するものととらえている。
- 2校案の場合、堀船中学校の校舎はそのままなのか。

- (事務局発言) 改築は、統合校を優先することになると考えられるので待つて頂くことになるが、どの学校も老朽化が進んでいくので、何らかの手入れはすることになる。
- PTA役員会で1校案や2校案が出ていますと流すと、危機感が出るかも知れない。滝野川第五小学校がどうなるのかという意見は出るだろうと思う。学校に持ち帰ってよく考えないと難しい。
- (事務局発言) 全体会で一定の方向が決まれば、その件について学校の要望によって説明に伺う。
- 王子中学校と桜田中学校が統合して、新築のすばらしい学校になると、周囲から子どもが殺到することも考えられるが、その際にはどうするのか。
- (事務局発言) 区内8カ所でこのような話し合いを進めている。新たな学校がいくつ出来るかにより、通学区域等が検討されることになるだろう、前もって検討することは考えていない。
- 豊島地区は、王子中学校と桜田中学校との統合校の出来によって変わってくるのではないか。
- (事務局発言) 今のところ、王子中学校と桜田中学校との統合校の新校舎は平成21年度から使用と考えている。
- 今何校案と決めて、王子地区の統合新校と同時に開校することは出来るのか。
- (事務局発言) 議論の仕方次第だが、幹事会から全体会に諮り、学校数について、場所について、統合時期についてと段階を踏むと、王子地区と一緒にの実施は無理ではないか。
- (事務局発言) 基本計画素案の段階では、10年間で9校を改築していくとしている。8地区の順位は決まっていないが、着工は早くて平成19年になるだろう。
- 港区などは、生徒の半分近くは他区から来ている学校もあると聞く。王子地区の新校がすばらしい学校になると、越境する子が増えて地元の子が入れないということにはならないか。
- (事務局発言) 都心区では、越境がないと成り立たないという所はある。王子地区の新校がそうなるかは何とも言えない。北区では学校ファミリーを推進している。地域と学校の結びつきを強めれば、指定校変更の割合が減少していくだろう。通学距離を保護者がどう考えるか。改築はどうしても順番が出てしまうので、縮める努力をするとは言いようがない。
- 今日の段階で何校案というまとめをするか。
- (事務局発言) これを先送りしても同じ議論の繰り返しになるのではないか。議論を進めるため、懸念は残るものの、幹事会としてはまとまったと全体会へ示してはどうか。
- 田端中学校、新町中学校、飛鳥中学校の動向はどうなっているか。
- (事務局発言) 田端中学校と新町中学校は1つになる方向。位置は決まっていないが、新町中学校の位置が望ましいという意見はない。
- この地区では滝野川第五小学校の問題を避けて通れない。地元ではどうか。
- 飛鳥中学校へ通っている子はいらる。
- 行政区域は滝野川だが、学校については困った問題だとは思っていないのではないか。

- 2校案でまともると、豊島地区の学校は新築でも、堀船中学校はどうなるのか、両方新築はできないか。
- (事務局発言) 両方は難しい。統合校を優先せざるを得ない。10年間で9校を改築する予定だ。将来ずっとそのままではないので、いずれは手を入れる。
- 堀船中学校は耐震補強が済んでいる。豊島中学校はまだだ。王子地区で新築、豊島地区で新築、そして堀船中学校が少なくなっていたらその時考えるほかない。将来の子どもたちにどう残すかを考えたい。
- 全体会には、滝野川第五小学校の懸念が残るが、2校案を前提に話を進める、その際豊島地区の統合校は新築もありうるが、堀船中学校の新築はすぐには難しい、という意見と、もっと議論を尽くしてはどうかという意見を諮りたい。
- 傍聴者 10年間で9校の改築と決まるならば、3校案などと悠長なことは言っていられないのではないか。
- 流れにおいていかれることが、この地域の衰退につながる。次の課題へ着手を。
- 全体会で2校案の提案を行い、次の課題は豊島地区でどの場所に中学校を置くか、となるか。
- 各校の意見をまとめる算段はいかがか。
- (事務局発言) 学校で意見を集約するかどうかは、各校で判断して欲しい。
- 町会では報告しながらやっている。意見があれば、個人的に報告をとっている。
- 次回、全体会を開催する。

## 豊島・堀船地区教育環境整備協議会(第4回)

■平成16年10月17日

■柳田小学校体育館

■次第■

1. あいさつ
2. 検討経過について
3. その他

■発言要旨■

- (事務局発言) (検討経過報告)
- 地域の望ましい中学校の数として、2校案をたたき台として議論を進めていきたい。
- 最初に感じた点は、義務教育は器で決めるものではないのでは。教育は等しく受けるべき、校舎の新しい古いで生徒が動くかどうか、流れるという点は疑問を感じる。2校案については、現状としてここに落ち着くかと思う。1校案では距離的にも遠すぎる。平成20年

度までの推計で良いのか。もっと先まで見てはどうか。地域を取り巻く環境としては、キリンビール工場移転の後、大規模な工場移転はない。人口の激変はないだろう、むしろ建て替えて高層化すれば人口は増える可能性がある。

- (事務局発言) 人口推移については、お話しのとおり極端に減ることはないとみている。今回お示ししなかったが、前回の幹事会では平成35年までの人口推計を示したが、おおむね30年後でも今の児童生徒数と同じとみている。
- これから30年後には公社住宅・都営住宅の建て替えの問題がでてくる。
- JTなど撤退の可能性も聞いているが、住宅の建つ可能性はある。ただ、住宅が増えると子どもの数が増えるとは必ずしも言い切れないところがある。2校案として堀船中学校の生徒数が減少したときは、閉校を考えるのか。
- (事務局発言) 生徒数が減少したら、その時点での再検討はあるだろうとは考える。
- 現状として堀船中学校は残るだろうと考えている。器が新しければ流れるというが、それは教育上の問題ではないか。建物が良いから行くとはあまり聞いていない。建て替えには順序があるのは分かる。統合校が優先されるのも分かる。僅か3年間だから、古い学校にあたることも、新しい学校にあたることもあるだろう。流れるというのはあまり考えずに教育の内容でみるべきではないか。地域性をいかすうえで豊島、堀船の良さをそれぞれいかすには2校案ではないか。
- 2校案の考えの中では、豊島地区の中学校は建て替え、堀船中学校は改修という話があるが。
- (事務局発言) 将来的にずっとそのままということはない。どの学校校舎も老朽化が進行しているので、待っては頂くが、いずれ建て替える。建て替えについては、中学校を優先、その中でも統合校を優先せざるを得ないと考えている。
- 豊島地区では、3校が1校になる。位置はこれからの議論になるが、清至中は面積的には難しいという話だが。
- 豊島地区の中学校3校が1校になるのは寂しいが、事情を考えると2校案で行くのはやむを得ない。堀船中学校の学級数の懸念についてもこれからの運営でうまくやっていただきたい。校長・関係者の努力によって学級数を増やすことは可能ではないか。豊島中学校に清至中学校・豊島北中学校が吸収合併されるのではないかと考える人もいるようだが、どうなのか。
- (事務局発言) 北区では現在、学校統合はすべて対等統合としている。3校が統合となれば、校名・校歌・校章・標準服なども、3校の関係者で考えることになる。
- 清至中学校は北区一児童の多い王子第一小学校があるのに、生徒数が増えていないと聞いているが。
- 全体の問題として、王子第一小学校から清至中学校には半分しか行かないという状況。生徒・保護者にとって魅力のある中学校ならば、私立に電車に乗ってでも行く。それと同じく、魅力のある中学校ならば、区域外からも通ってくるだろう。こういう考え方を持ってやって頂きたい。
- 校長としては、お預かりした学校の大小にかかわらず、最善を尽くす。ここでの議論は聞かせてもらって、お預かりした中で最善を尽くしたい。

- もっともだと感じる点が多々ある。私学のようなスタンスでは行かない点もある。公立校としての限界の中で、地区の学校として特色ある学校を目指して努力している。地区の子にはそれぞれの希望があるかと思うが、学区の学校に通うのが基本姿勢だと信じている。子どもたちの意識として部活動で選ぶ、制服で選ぶ、というのが多少なりとも出てくるとは思うが、教育の中身で勝負していきたい。
- 今までの議論のとおりだと思う。これからも意見を聞きながらやると良いと思う。
- 中学校では部活の問題が大きい。部活を充分出来る規模にしたい。
- (事務局発言) 幹事会では2校案で一本化されたが、全体会として2校案について了承頂きたい。
- 今日の出席人数が少ないようだが、この人数でよいのかが気になる。
- 本日の結果としては、2校に決めるという訳ではなく、2校案をたたき台として議論を進めていくということ。
- 出席者は少ないかも知れないが、関心があるから出席しているのだから座長の言うとおりに進めて良いのではないか。
- これからも幹事会・全体会を開催して、3月末に全体会でまとめとなることを目指していく。異議がないようなので、2校案を前提として検討を進めていく。
- (異議なし)
- (事務局発言) 町会・自治会長会議では本日の件を報告する。各校のPTAではその学校で必要があれば説明に伺う。また、協議会だよりを、児童・生徒を通じて保護者あてに配付する。各町会・自治会には回覧板による回覧を依頼する。

## 豊島・堀船地区教育環境整備協議会・幹事会(第5回)

■平成16年11月21日

■豊島ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第4回全体会のまとめ
3. 望ましい学校位置について
4. その他

■発言要旨■

- 第4回全体会も終わり、新たな課題に入っていきたい。
- (事務局発言) 望ましい学校の位置について、それぞれの場所での長所・課題について今までの議論で挙げたものを記載してある。清至中の敷地がやや狭いこと、豊島中の

敷地が国有地であることが出ているがきちんと長所・課題を挙げて、議論の方向性を出して頂きたい。場所や周囲は皆さんご存知かと思うが参考に示した。敷地・場所・環境・通学路から比較検討をお願いしたい。

- 参考までに、豊島中の借地料はいくらか。
- (事務局発言) 次回示す。ちなみに、国有地で建て替えるとなると、承諾料がかかる。
- 町会で国有地を借りたことがあったが、時価に近く、結局買い取ったということがある。
- 2校案とすると堀船中ともう1校だが、あえて言うと豊島北中の位置では北に寄りすぎかと思う。
- 昭和町地域としては、2校案ならば地域として今後他校へ行かない様な対策を考えていきたい。滝野川第五小から昨年20名飛鳥中へ行ったが、いい学校となって堀船中へ戻っていきたいと考える。豊島地区でどこにするかということは今日のメンバーだけでは難しい問題だが学校がもっと真剣に考えていてもらいたい。
- 個人的には2校案には反対だが、2校案とすると、財政が厳しいのに国有地を進めるのはどうかと思う。王子第一小から清至中への進学は少ないが、王子第一小には4クラスの学年があるし、来年の小学校1年生も4クラス以上という話で、清至中の生徒数増の可能性が先に閉ざされてしまうのはどうか。学校では生徒数を増やす努力をしている。
- 今年の6年生にも清至中はこういう学校だよと紹介してもらっている。デリケートな問題なので、一概に卒業生の半分しか行かないとするのはどうか。個人的には、目の届く範囲へ行かせたいと思う。
- 場所については、地図上では豊島中の位置かと思うが、国有地ということでその分のお金を活用して手厚い教育をして頂きたいと思う。豊島北中が団地の中にあって、としま若葉小と背中合わせにありなくなってしまうのは残念で、豊島北中で手厚い教育が受けられるならば望むところ。豊島1・2丁目には柳田小から王子中に行く子もいるが、保護者が選んでいるのだろう。中学を選ぶということで小学校6年生の保護者が不安に思っている。
- 魅力ある学校を作れということですね。
- 目の届く範囲で近くの中学校へ行かせたいという気持ちはあるので、豊島北中の位置にできればありがたい。
- 中学校の位置は、豊島中の国有地の金額がわからない限り意見が出ないのではないかな。
- (事務局発言) それは課題として、それぞれの場所の長所・課題を挙げていて頂きたい。事務局としては、もし豊島中の位置となれば、それに向けて努力する。国有地だから排除するという考えはない。
- 豊島中となれば、国有地を買い取ったために、新しい体育館とか校舎が建たないとかなのではないか。
- (事務局発言) 国有地だから何が出来ないという考えはない。国有地であることは課題の一つと考えている。国有地を買収するのかなどは、最後の問題として出てくること。跡地としては区有地であれば売却も可能となるし、別の施設を作ることも可能になる。国有地ならば返却することになる。国有地であることが位置選びの決定的な要因にならないと考える。

- 3校どの敷地でも新しい校舎が出来ると考えていいのか。
- (事務局発言) 土地の所有権は参考であって、区有地であっても色々課題はある。物理的な条件や地域の気持ちを検討して頂きたい。
- 敷地が広いことを考えると、豊島中の位置がいいのでは。建つ施設のこと要素になる。
- 位置としては堀船中と清至中の位置がバランスとして適当かと思う。校庭の広さからすると豊島中のほうがいいのかもしいないが。
- 豊島中だと王子中に近すぎないか。
- 問題は中身の手厚い教育を受けさせたいということ。場所が真ん中であるとかは余り問題ではなく、魅力的ならば20分でも30分でも歩いていく。
- (事務局発言) 望ましい位置、統合の時期、教育の内容と段階を踏んで議論をしている。位置などが決まらないと、どういった学校にするか地に足がついた議論になりにくい面がある。
- 以前、部活が活発に出来る学校にしてほしいという話はあったが、現在のままでは一部では部活が成立しない状況になっている。これは魅力に欠けると言えるだろう。統合しても以前と同じような学校では納得いかないだろう。
- (事務局発言) これからの学校のあり方を考えるうえで、まず規模の確保を図りたいという点が根底にある。また、老朽化が進む中で、統合校を優先しての改築を考えている。
- 建つ施設がわからないのに場所は決まらないのではないか。
- 現在の校舎・体育館・プールがそのままということではなく、どういう学校になるのかはまったくわからないということですね。
- (事務局発言) どのような学校になるのかは設計しただが、すべての敷地で設計を示すのは不可能。
- 敷地の有効活用は設計で考えることで、決定的な要因ではないということか。
- (事務局発言) その点は地域の考え次第で、他の地区では統合する以上現在よりも狭くなることは納得できないというところもある。多少狭くとも地域の中央がいいという考えもあろうし、部活のことを考えると校庭は広いほうがいいのかという考え方もあろう。今回の意見の内容を一覧にまとめる。そこに、それぞれの委員に長所・課題を加えて頂きたい。PTAはそれぞれの学校を守りたいと思うが、全体として将来の子ども、地域にとってどうなのか、充分考えて書き加えて頂きたい。
- 地図上では中央とか何とかあるが、通学路などの状況のことも考えて、次回までに考えていきたい。
- 2校案ということで進んでいるが、戻ることはあるのか。
- (事務局発言) 2校案で検討して、どうしても越えられない課題があるとき、1校案に戻ることもありうる、1校案を排除したものではない。まずは2校案で検討するということ。
- 3校案はないのか。
- (事務局発言) 3校案については、適正配置するメリットがないということで、議論から排除されている。
- 前回までの議論の中で、この地区では基本的に2校案で行きましょうとまとまっている。それを覆すにはそれなりの理由が必要だろう。

- (傍聴者) 中学校PTA連合会の中でも、どういう訳か豊島中に建つというような話が広まっている。王子第一小から清至中へ半分しかいかないと書かれ、悔しい思いだ。清至中がなくなると思っている王子第一小の保護者もいる。学区域があるのに自由に扱われているのがおかしいのではないか。
- (事務局発言) こういう現状はいかがなものかということで発言があったと思う。事務局のまとめ方の問題だとしたらその点は気をつけたい。

## 豊島・堀船地区教育環境整備協議会・幹事会(第6回)

■平成17年1月25日

■豊島ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第5回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校位置について
4. その他

■発言要旨■

- (事務局発言) 前回の補足として、豊島中の借地料は平成15年度は年額37,435,804円であり、更新料はないが、建て替えの際には承諾料として年額の2~3倍の金額を支払うのが慣例である。この点については区長会・教育長会において廃止を求めている。規制緩和の中でどうなっていくかは不透明なところ。借地料は都区財政調整交付金で補填されているが、承諾料については財政調整の措置がなく、区の単独負担となる。(望ましい学校位置について)(シートの説明)
- 望ましい学校の位置について、まとめを参考にしてご意見を。
- 話をむし返すようで申し訳ないが、議事録を読み、もう一度幹事会で1・2・3校案並立の状態に戻して検討するべきではないか。
- 元へ戻して審議したほうがいいということか。幹事会のなかでは議論は尽くされていると感じるが、どういう観点からの意見か。
- 前回の議事録で出ているが、『前回までの議論の中で、この地区は基本的に2校案で行きましょうとまとまっている。それを覆すにはそれなりの理由が必要だろう』とのことだが、議事録を追う限りでは、3校案がなぜだめになったのかの理由が分からない。3校案が良いというわけではないが、したがって、PTAの皆さんに聞かれても説明が出来ない。続いて、全体的に行政サイドの誘導で動いていると感じる。それから、議事録の記載内容と教育委員会の口頭説明ないし文書で出す内容が乖離している。例えば、第5回幹事会に載

っている「第4回全体会のまとめ」では『この地区の望ましい学校数として2校案をたたき台に今後の検討を進める。ただし、より良い教育環境を模索する中で学校数の再検討が必要な場合、他の案もありうる。』とはっきり書かれているが、その裏の協議会だより第3号では、『望ましい中学校の数は2校とする方針を了承しました。』とある。これは同じ文章でしょうか。

- 3校案は余り出てこなかった案件なのだが。
- 第4回全体会のまとめの内容と、協議会だより第3号と言っていることが違うのではないか。教育委員会に聞いているのではなくて、幹事の皆さんに聞いているのだが、同じ言葉には思えないので、PTAの皆さんに説明が出来ない。
- (事務局発言) 中学校訪問のときにも同じ話を頂いた。表現上言葉足らずの面はお詫びしたいと申しあげた。協議会だよりにあるように、望ましい中学校数は2校とする方針、これは全体会で了承された。表現として、確認事項の『この地区の望ましい学校数として2校案をたたき台に今後の検討を進める。』ということが全体会で了承されたことをお伝えした。
- そうであれば、そういう表現になるべきもの。中学校での説明のとき、確認事項の書き方を間違えました、2校案で承認されましたと書くべきだったと担当課長が言ったが、こんな議事要録があるか。
- (事務局発言) その点についても指摘があった。確認事項として全体会で了承され、それでは望ましい中学校の数は2校案とする方針で了承されたということを協議会だよりで記載するという事も申しあげている、そこまで議事要録について書き込まなかったという点は事務局の手落ちで申し訳なかったと申しあげた。
- 1校案はなくなったとどうしてされたのか。幹事会でそう決定されたのかと読んだが、そうはなっていない。『2校案で検討して、どうしても越えられない課題があるとき、1校案に戻ることもありうる、1校案を排除したものではない。まずは2校案で検討するという事。』と書いてありながら、なぜそういう発言をするのか。
- (事務局発言) 1校案がもしなくなると、そのように受け止められたとしたら恐縮だが、当面の議論の中からはなくなったということ、言葉足らずであったが、1校案を排除したものではない、あくまでも2校案を前提に議論をしているということは間違いない。
- 前PTA会長が確認したとき、なくなったと返答した。
- (事務局発言) 話の過程のなかで、1校案は今のところないという返答をした。
- 不誠実ではないか。
- 1校案については、はじめに話し合い、豊島と堀船で4校を1つというのは無理がある、通学区域や通学時間などで、受け入れられないという意見が多かったのは事実。その意味で1校案はなくなったということではなかったか。
- それではおかしい。それでは『この地区の望ましい学校数として2校案をたたき台に今後の検討を進める。ただし、より良い教育環境を模索する中で学校数の再検討が必要な場合、他の案もありうる。』は何を意味しているのか。1校案と2校案があると説明した。
- (事務局発言) 議論の中で、2校案において豊島地区の3校を1つとしたとき、新しい学校づくりが進み、将来的に堀船中の小規模化が進んでしまうのではないかと、堀船中のみ校舎の老朽化が進んでしまうのではないかと議論があり、それにあたって、教育は校

舎のみで選ぶものではない、教育の中身をしっかりやっていってもらおうではないか、その上でそれでも生徒の集中があったとき、それこそ5年後10年後いつになるか分からないが、新しい学校が出来た段階で、改めて堀船中の状況によっては再度検討しようではないかという議論があったととらえている。

- 1校案の話もあったということか。なかったのではないということか。
- (事務局発言) 最初から1校ということではなく、まずは出来るところから進めよう、その後で再度検討もありうるのではないかという話ととらえている。
- 議事要録を読んで、3校案について出ている。第3回幹事会のまとめに『3校案については、議論は尽くされている。1校案・2校案のどちらかになると思うが。1校案・2校案のどちらかに絞って次回議論をするということでどうか。』3校案の検討はあったのではないのか、違うのか。始めからなかったということではなかったのではないか。
- (事務局発言) 第2回幹事会のときに、A案、B案2つのシミュレーションをもとに議論した。
- 3校案あったのでは。
- 審議のなかで、適正配置するメリットがないとのことで、3校案に賛成する意見がなかった。
- 『3校案については、議論は尽くされている。』とあるが議事録のなかでどのような議論があったのか見えない。
- 話の中では、部活が活発に出来る学校、適正規模の理想的なクラス数から議論してきた。シミュレーションを1つずつ消してきて、その過程で2校案でここまで来たというのがいきさつ。3校案は残らなかった。豊島地区と堀船地区で1校ずつの2校案が最終的に残ったという過程。
- 流れは分かるが、議論は尽くされたという議論が分からない。『それを覆すにはそれなりの理由が必要だろう』とあるが、逆に3校案を排除した理由がわからない。
- 立ちあがってからの経過をご存じない。集まっている者は、そのとき誰が言ったかまでは別にして流れはつかんでいる。そういう細かいことが知りたいということなのか。
- 議事録なのだから残っているべきものだ。それが残っていない。
- 全体会や幹事会ということになると、要約して出すわけで、細かい部分が知りたいということならば、事務局に細かい筆記や詳しい議事録がありますよね。その経過をきちっとしたかたちで説明したほうが良いのではないか。4校から3校へという件に関しては、私も意見を言ったが、豊島北中は100名を切るだろうし、小学校でも適正配置をした。この先、思い切ったことをしなければ、少子化が進んでいく。その中で全体を見たときに地域としての大きな枠組みのなかで小学校は4校となった。堀船中に関しては滝野川第五小・堀船小のために地域の方々を含めてなくすのは難しいと、豊島地区をまずは進めていこうとなった。豊島地区の中で1校にするのか2校にするのかという中で、何年先になったとしても、少子化は進んでいく、また統合を考えなくてはならないのではないかという懸念があり、3校が1校にまとまって、統合の方向で早く出来るのであれば、検討したほうが良いのではないか、となった。
- 1校案を最初検討して、将来を見据えているが、現実的には2校案ということで、決まっている。

- 個人としては1校案を提案した。3校案の話も確かにあった。将来のことも考えて、1つの中学校で、スーパー中学校としてはどうかと提案した。議論の中で色々無理なのではないかということで、確かに1校案についても議論されている。
- その点については分かった。確認したいのは、幹事会の結論と違うことを協議会だよりで発行する、説明で違うことを発言というのはどういうことか。こういう会議で結論を出したにも関わらず、それと違うことをするとはどうか。
- (事務局発言) 協議会だよりの件については、正確性を欠いているという議論はあると思う。
- 正確性を欠いているではなくて、違うことを書いている。
- (事務局発言) 議論の中で、『この地区の望ましい学校数として2校案をたたき台に今後検討する』ということはどうなっている。『ただし、より良い教育環境を模索する中で学校数の再検討が必要な場合、他の案もありうる。』
- その保留条項が消えてしまっただけで意味が違ふ。
- (事務局発言) 繰り返しになるが、『望ましい中学校の数は2校とする方針を了承しました』ということで、基本的には2校という合意がとれているが、それぞれの思いのなかで、1校・3校が完全になくなったということではないと、2校案で検討して行って、暗礁に乗り上げれば戻ることもありうるという基本的なこと。
- 今の説明なら分かるが、先日説明に来たときに1校案はなくなったと言った。
- (事務局発言) それについては申し訳ないが、私どもは文章に書かれていることは重要視している。説明で1校案はなくなったと言ったとすれば、正確性を欠いている。ただ、冒頭おっしゃった、この会議を最初からやりなおすというのは、1年近くの議論の中で、それぞれの思いを重ねながら到達したところであることを考え、協議会は最終決定ではないということ、最終決定はもちろん議会で行うものであるということから、協議会の幹事の皆さんの大方の意見がこの方向で全体会に持って行っていいということであれば、この方向で持っていきたいというのが事務局としての思いである。
- 一番いい方向ならばいいが、議事録を見ると、区の誘導で動いているのではないかとしか思えない。なぜかと言えば、早く決まれば早く建て替えが出来るとニュアンスされている。ところがPTA研修会資料、このとき、複数の人間が書きとめているが、早く決まれば早く建つという問題ではないと、予算見合いであると、意見誘導がされている。それから、清至中の悪口がぽこっと入っている。しかも関係者が出席していないとき出てくる、発言者も分からない。何のフォローもないわりには、いきなり2校案なり、清至中、豊島中、豊島北中のどこの場所にと一挙に話に移ったときに、どう考えても豊島中に誘導しているとか考えようがない文章になっている。豊島中でないといけないということではないだろう。豊島中のことになると急に弁護が饒舌になって一生懸命しゃべり始める。議事録を見ているもそうだ。ほとんど出来レースだとなっても仕方がないのではないか。
- 出来レースではなく、散々いろんな話をどうしようと話してきた。
- 今までの経過で、一つの学校を鼻屑しての発言は出たことはない。皆様のご意見を踏まえて、発言を促してここまで来た。偏った意見はないし、そのような議題もない。
- (事務局発言) 校数について、第3回全体会、第3回幹事会に要約した形で出ている。先行したところが有利ではないかという議論は、王子小・桜田小、王子中・桜田中の案件が

話が先行したので、先行したところが有利なのかと出た、話が早く進めば検討は早く行かざるを得ないだろう、ただ、結果的に改築が早くなるということは申しあげていない。議事要旨には盛り込んでいないが、そういう経過があったことは伝えたい。

- どの場所が一番いいかと、豊島地区3校の場所のうちどの位置に新しい学校を建てるのかをおはかりしたい。
- 課題としては、豊島中は国有地であるということか。
- (事務局発言) 借地料については、区単独ではなく、都区財政調整の枠組みの中で補填される。
- 国有地であることによるデメリットはないということか。
- (事務局発言) 建て替えるときに、借地料の年額の2倍から3倍の承諾料を支払うことが慣例になっている。
- それはデメリットになる。
- そのお金は、他の場所ならば教育に回されるのか。
- (事務局発言) 予算の配分をどう見るか、適正配置を実施すると、若干なりとも財政にプラスに働く、そのお金を教育に回せるかということ、単純には出来ない。高齢者のほうにとか、乳幼児のほうにとか、区の財政事情による。教育費が減少したから単純にそれをそのまま教育費にとは出来ない。
- 区有地を選ぼうと国有地を選ぼうとさほど変わらないということか。
- (事務局発言) どの位置が望ましいかの議論をお願いしている。土地の問題はそれなりに大きい、土地の支払いが大きいというよりは、子どもたちにとって何が必要かを考えていただきたい。越えられない障害ではないととらえている。これが議事要旨に国有地についての記述が多い理由でもある。
- 子どものこと、学校のことを考えて欲しいということか。
- どの位置にするかは、これまでもクラブ活動が十分に出来ないという話もあり、グラウンドの広さも加味しなければいけない。豊島地区3校を1校にすると、一番広いのはどこ、広いほうが良いと決めていいのか。どのような施設が出来るかわからないと話が出来ないのではないか。
- 一番理想的なのはどこなのかと出していきたい。
- A中はグラウンドが狭いから、体育館とプール合築にするとか、何をもって良いと判断するのか。
- (事務局発言) この点についても今まで議論があった。シミュレーションできないかという話だが、体育館とプールの一体化など、与えられた土地の形状の中でどういうものを造るかという中で、若干のカバーは出来るだろうと考えている。
- 階数の関係もある。
- (事務局発言) 高層化については、周辺との関係、日影の問題など課題が多い。
- 距離的にはどうか。考えるべきものさしだろう。
- 位置的にどこが良いのかと。
- その点はどちらも同じ。
- 距離の問題については、かつて私立の話もしたが、電車で1時間かけても来るし、何百メートルということは、それで落ち着いたのではないか。子どもたちのために、平成20年度

のシミュレーションで500人強の生徒数、その人数に合わせてどういう施設が出来るのか。

- 原則論では、1.5キロメートルの通学距離だったが。
- (事務局発言) 統合校において施設が国の設置基準をクリアするかどうかという点では、清至中では校庭がクリアできるかどうか、ただし、クリアしなければならないものではない、と返答している。
- 広さだけの問題ならば、としま若葉小を旧豊島東小に移転して、豊島北中の敷地を拡張するという意見もあるが。
- 実現可能性のないものが載るのはどうか。
- (事務局発言) 今後誤解を招く表現であるならば、削除するか表現を改めるが。
- 削除することはないが、実現不可能ではないか。
- (事務局発言) 旧豊島東小については、後利用が決まっている。としま若葉小移転の可能性はない。
- そういう話題が出たが、余りにリスクが高いということ。広い土地に良いものが出来るのは当たり前で、国有地ということを考えなくてもいいのならば、広い土地にまともなものが建つのが普通。最も適当ではないか。
- 個人的には思いがあるが、それを置いている。豊島北中でも最高1000名位生徒数があったので、600名程度は受け入れられる。広いところに建てたほうが良いのではないか。
- 将来のことを考えれば、堀船地区から近いのは豊島中であると感じる。
- (傍聴者) 国は教育費を削減しようとしているなかで、国有地ということはどうか。
- 国有地ということが引っかけるといえる意見か。
- (事務局発言) 将来のことはなかなか見とおすことが難しい。承諾料は借地料の年額の2倍から3倍を支払うのが慣例だが、見直しの要求をしている。地方分権のなかで不透明ではある。言ってみれば、懐を痛めずに土地を使っている状況だが、将来は不透明ではある。その点を念頭に置きながらも大きな課題ではないととらえている。
- 逆に学校を作ったほうが良いかもしれない。払い下げられて、大きなマンションがボーンと建つこともあるだろう。広い土地を学校として確保できるのであれば、逆に良いのかもしれない。
- 義務教育なのだから、建てたらどくわけにはいかないだろう。
- 豊島中の場所という意見が強いが、清至中の場所にもメリットがあるので捨て切れなところがある。教育委員会としてはどの場所がメリットがとれば、区議会にはかるとなるのか。
- そうすると、豊島北中の場所にもメリットがある。あえて清至中の場所にするのも不自然ではないか。
- 一番土地の広い場所を選ぶということになるか。
- 何年度に統合をめざすのか、それが分からなければ。
- 最終的な判断は区がするのであって、まちの意見としてどうまとめるか。
- 日程の問題は教育委員会で明らかにするべきだ。小学生の保護者が不安になる。5年のスパンでなどを出してくれれば分かりやすい。

- (事務局発言) 協議会としては平成16年度を区切りとして、それぞれの地区で議論をしてきた。この後どうするのかという点は、それぞれの地区のまとめをいただいて、教育委員会として考え、示していきたい。まず、教育環境整備協議会では、学校数を何校にするか、場所をどこにするか、統合年度はいつが良いのかを議論いただいて、統合推進委員会という別のかたちで校名などを考えている。中学校の適正配置の重要性から、比較的短期間で考えていきたい。噂のみが先行するという話もあるが、時間を限って、学校数、場所、統合時期について議論いただき、話がまとまらないということならば、位置について議論をまとめていただきたい。留保になっている事項はあるが、地域のことを考えて議論したことは押さえておきたい。幹事会のまとめを全体会に諮る。無理にまとめることはないが、まとまったほうが良いというところがある。
- 豊島地区3校で議論が進むが、将来的には堀船中がどうなるかは分からない。滝野川第五小と堀船小の行政区域が違うというところは、統合が進むと問題が出るだろう。個人的には、堀船中の将来を考えた場合、豊島中の位置が望ましい。
- 滝野川第五小については、滝野川地区ではどのように話が進んでいるか。
- (事務局発言) 滝野川南ブロックでは、田端中と新町中は統合する方向だが、中学校の敷地がどちらも狭いので、統合校としてそれなりの面積を確保するため、小学校を視野に入れて考える方向。
- 堀船中は滝野川第五小のために残すが、将来的にはどうなるか。
- 今回の幹事会のまとめとしては、豊島地区の中学校の位置は豊島中の位置が望ましいということが良いか。
- スペースの点でということがある。
- 最も広い敷地であるので、豊島中の位置が望ましいということではないか。
- (傍聴者) 広ければいい物を作れるという保障はあるのか。
- 面積しか判断するものがない。
- 広いから良いものが出来るという確証があるかは難しいが、狭いところよりもいい。
- (傍聴者) 予算も年度も決まっていないではないか。
- ただ広いからということではない。堀船地区の関係もある。
- (傍聴者) 豊島北中の位置に作っても、良い学校ならば通うかもしれないではないか。何か見えるものがないとおかしい。
- (事務局発言) 清至中の位置、豊島中の位置とも、優劣つけがたい。一点違うのが面積であり、広いほうが自由度は高いと言えるだろう。
- 豊島中の位置が良いといっても、あくまで地元の意見で、議会では清至中の位置となる可能性もあるのではないか。
- (事務局発言) 教育委員会としては、出来るだけ地元の意見を押ししたいところではある。幹事会の方向としては、敷地面積が最も広いということから、豊島中の位置が望ましいということが良いか。
- その方向で、次回、全体会を開催する。
- 協議会だよりを発行するときは、『決定しました』という表現はやめて頂きたい。
- (事務局発言) 受け止める方が決定したという受け止めのない様に留意したい。

## 豊島・堀船地区教育環境整備協議会(第5回)

■平成17年2月21日

■豊島ふれあい館第1ホール

### ■次第■

1. あいさつ
2. 検討経過について
3. 協議会検討報告(案)について
4. その他

### ■発言要旨■

- 当初の予定どおり、今年の3月末までに報告書を作成できるようにという観点から、今回が最後の全体会になろう。最終的なまとめとして発言が多くあることを期待する。
- (事務局発言) (検討経過について)(協議会検討報告案について)
- (事務局発言) 本日席上に配付したA4版2枚組みの書類は、清至中関係者からの配付の要望があり、座長の了解を得て配付したもの。
- 経過説明、まとめについてご意見をお願いしたい。
- (「豊島・堀船地区教育環境整備協議会報告に対する清至中関係者の意見」読み上げ)
- 意見書をもって、教育委員会として受理したということによいか。
- (事務局発言) 本日ご意見として頂いたということで、議事要旨に載せる。
- まとめに、清至中の位置という考えもあると記載したが、これで納得いただけるのか。皆さんの意見を頂きたい。
- この話題について聞きたいが、清至中関係者から聞いた話を、ある程度時間を割いて討議したらどうか。
- ご案内のとおり、この協議会は最終判断ではない。地元の意見としてまとめて、最終的には教育委員会を経て区議会で決定する。皆さんの意見をまとめるという形で報告を提出するという形になろうか。それを踏まえて、教育委員会、区議会で議論し、判断されると考えるが。そういうことで、この文が入るということで意向が伝わると理解するがどうか。
- 協議会方針(3)として、「現清至中の位置が望ましいとする考えもある」と、これだけの文章だと具体性がないので、この文章をそのまま載せるということによろしいか。
- 報告案の記載のみではなく、具体的なものを載せるということか。
- 協議会方針(3)の中に、「現清至中の位置が望ましいとする考えもある」と書いてある。そういう中でこういうものが出てきたのではないか。(3)をそのままでは言葉が足りないのではないかということで、これをそのまま載せるということか。
- (事務局発言) 今までのご意見等を踏まえてこの表現で提案している。この書類で書かれた意見の内容も含まれていると考える。

- これから先、清至中にもう少し数が流れるのではないかということ。どの程度かははっきり分からないが、増える。これからまた戻ってきたときに、かなりの数になってくるものと考えている。王子第一小の卒業生が増えていくということである。
- 平成20年度までの予測では変わらないが。
- 現実的に増えてくる。まず、マンションが建っている。太右衛門屋敷やフレーシエル、人口的には増える。たぶんこれは入っていないだろう。
- (事務局発言) 豊島7丁目の168戸、260戸は予測に算入している。
- 王子第一小は700名は越えている。卒業生は出てくる。もっと清至中に流れると思う。
- (事務局発言) そうしたことを踏まえて、(3)は「近隣小学校において児童数の増加が期待できることなどから」と記載しているが、それではいかがか。
- この文言では不足ということか。
- それで結構。統合してからまた増えるようでは仕方ないということをお願いしたい。
- 協議会方針(3)については、清至中関係者から強く要望があったということでよろしいか。
- 遅ればせながら、これまで自治会へ報告していなかったのも、報告した際の要望事項として、1点目、学級数が少ないことがつらい。1学年3~4学級が望ましいという意見があった。その中で、東京都は40人学級で、40人を越えれば2学級になる。現実には30人を上回る学級がある。その点で40人がひとつの教室に入っているのは難しいのではないかという意見があった。ならば何人が適当なのかは分からないが、30人くらいがいいのではないかという保護者の意見があった。その点で1クラスの人数を40人学級から30人学級へと、国・都の動向もあるが、行き届いた教育のため、もっと少なめにして、学級数増が望ましいという希望だった。土曜日が休みになった件だが、全体の意見がどうかは分からないが、結果的にプラスに向かっていないという意見があった。学級数を増やし、1クラスの人数を減らし、せめて30人台に、そういう要望があった。
- この問題はもう私どもの問題ではないが。
- (事務局発言) ご意見としてご要望があったことは議事録に記載する。都は40人学級を堅持しており、区として少ない学級編成にすることは検討していない。1点目として、学級数が少ないと学校としてつらい。2点目として、40人学級では教育が行き届かないのではないか、何人が適当かは分からないが30人くらい、学級数増が望ましい。3点目としての、土曜日が休みであることが必ずしもプラスでないという件はどのような内容か。
- そのことが議論の中心ではないが、結局は子どもが家にいるということが不安。参加者が仕事を持っている親が中心だったということで、それ以上は議論していない。
- (事務局発言) 子どもたちが家にしか居場所がないということで受け止める。
- 1学級30人と40人では学級数に大分違いがあるのか。将来的にはどうか。
- (事務局発言) 学級数の決定権は都の案件であるが、各区独自に補完的な動きをしている。40人学級は教員配置の基本的考えであり、実際は北区では平均で30名ちょっと超えた程度。30人学級とすると、31人で2学級になり、16人の学級も出てくる。都は今のところ40人学級を堅持すると、その中で学校での運用として少人数学習を、習熟度別などいろいろな形で行っている。40人学級を30数人の学級にするという情報は得ていない。
- そういう意見があったということで記載していただきたい。

- 清至中関係者の意見で、王子第一小関係者から人数が増えてきているということ。平成13年には清至中への進学が83パーセントとのこと。これから世帯が増えること。以上を考えると、小・中学校に入った場合、新校舎がパンクするのではという意見書の不安があるが、現時点で、教育委員会も苦労して考えている。現時点ではこう行かざるを得ないのでは。あくまで、1つの学校になると、豊島中の位置に出来ても豊島中もなくなる、新しい学校が出来るということを誤解がないようにPRしておかないといけないのでは。卒業生が、学校がなくなると騒ぐことになる。
- 学校がなくなる、さびしいということへの意見だが、あくまで新設校として出来るということを確認したいがどうか。
- (事務局発言) 原則として統合校は新設校としてスタートするというのが基本である。ただし関係校間による協議を具体的には行っていく。どこがなくなる、残るではなく、その位置に新しい学校が出来るとお考えいただきたい。
- 学校の名称についてはどうか。従来の名称を残さないというのが方針と聞いていたが、王子小と桜田小の統合では、従来の校名を使用すると聞いた。従来の考えを変更したのか。
- (事務局発言) 原則として、校名・校歌・校章は新しくするルールである。ただし関係者間での話し合いがつけば、その話し合いの結果を尊重する。王子地区については、「新生」王子小であるということで地域・学校関係者で合意されたので、教育委員会ではその合意を尊重した。
- 豊島地区で1校として、名称は豊島中・清至中・豊島北中ではなく、新しい学校ということか。
- (事務局発言) 原則としてそのとおり。
- どの学校がなくなるのではなく、新しい学校として発足するということ。
- 3校を1校に再配置する。3校全部がなくなる。統合されるというのではないが、そこを理解できない者もいるだろう。教育委員会でよくPRを。とにかく区としては財政難ということもあろうし、クラブ活動が出来ないというマイナス面もあろうし、現時点では、やむを得ないのではないか。
- 清至中関係者の意見書にある、王子第一小から清至中への進学者の減少ということがあるが、こういう動向は把握しているのか。
- (事務局発言) すべての学校について詳細に把握しているわけではないが、清至中へ進学する王子第一小の割合の減少は、若干、急であると受け止めている。
- 報告案協議会方針(4)の学校統合の時期については、確かにこれは議論していない。ということは先程来から3校の名前が消えて新しくすると、学校統合ということ自体がおかしいか。
- 我々は地元の意見をまとめるという立場で、統合時期の最終的な判断は、別に検討されることで、協議会としてそこまでは検討していない。
- (事務局発言) 確かに誤解を招きやすいと考える。適正配置の実施時期についてということである。
- 出来るならば、清至中については決まるまで残しておくということはどうなのか。
- おっしゃるとおり、決まるまでは残る。

- 区で、区議会で豊島・堀船の統合は平成20年としたと仮定して、3年間の期間がある、その3年は残すということか。
- (事務局発言) 適正配置を実施するまでの間は、それぞれの学校はそれぞれ残る。
- 20年云々として、生徒がいなくなってしまうのではないか。
- (事務局発言) その懸念は事実である。適正配置が明確になるとどうしても入学する児童・生徒が減少するし、現在もそういうことがある。だからといって実施を急ぐということは考えていない。
- そういう議論を踏まえて、清至中云々という文言が入っているとご理解を。確認だが、この後の流れはどうなるか。
- (事務局発言) 区内8か所で協議会を開催し、地区により適正配置を実施するということもある。この地区では、学校数はおおむね2校として、配置場所は明確にしていない、時期は検討していない。これらを踏まえて行政内部でしばらく検討する時間をいただく。その後、また改めてこの様な協議会を開催して皆様とご相談をし、進めていくのか、あるいは1年半をかけて皆様にお考え頂いたので、行政からこの様なプランではどうかと提示するのか、あるいは中学校だけを検討してきたが、小学校は検討の俎上に載せなくて良いのかなどの課題がある。それらを踏まえ、しばらくは行政内部で検討のうえ、何らかの形で報告あるいは提案する。
- 北区全体の協議会でまとまれば良いのか。どこかの地区で遅れればその分延びるのか。
- (事務局発言) 今年度末ですべての協議会で括りとする。
- 児童数の推移について補足だが、確かに王子第一小から清至中への進学数は年々減っている。私自身の分析や、地域・保護者の考えを述べると、現在小学校5・6年生の保護者や児童にとって、中学校に入学して適正配置が行われず、安定した学校生活ができる学校が入学する際の一番のポイントではないか。王子第一小5・6年生の保護者・児童は、清至中がこれから3~4年間くらい統合なく存在するかどうかに関心事だろう。以前も話題に出たが、協議会だよりの表現や、根拠のない噂が重なって、もしかしたら清至中がなくなってしまうのではないかという噂が広まっているのも事実、なくなるならば他の学校が安定していて良いと判断する家庭もある。生徒数の変化は、従来と平成16・17年度は違うのではないかと思う。適正配置が明確になった学校についてはそういう現象が起きていると説明があったが、今現在他の地区でもそうだが、明確になっていなくても噂で変化しているという状況があるのではないか。
- (事務局発言) 今年の傾向は分からないが、噂については、地域では学校がなくなると減るという話を聞くが、実際それ程従来と違うパターンになっていなかったというのが昨年度の状況としてはある。噂が先行していることは色々な地区で聞く。誤解の生じないように伝えて欲しいという要望は聞くが、難しい面はある。出来るだけ噂を抑えようと協議会だよりの部数を多く発行しているが、適正配置があるということである意味疑心暗鬼というか、抑えられない面がある。実際には従来の動きのパターンを踏襲している面がある。減ったという話は聞くが、必ずしもそうではない面がある。学校は近いところを選ぶというのが保護者の思い。この地区は中学校が近接しているので、従来も移る傾向にあるが、その流れが加速されているのかはしばらく見ないと分からないだろう。また、隣接する王子地区は統合の真っ只中であり、保護者がどういう選択をするのか。噂は出ているが、噂で

動くという点では事実としてはもう一つというところがある。子どもがお願いしたいのは、どうぞ地域で正しく伝えていっていただきたい。地域の学校を地域で盛り立てていただきたい。公立中の強みは地域との関係をどう作るかにかかっている。

- 中学校については、全部なくなり、新しい学校が出来る。どの中学校がなくなるというのではなく、豊島中・清至中・豊島北中そろってということをお知らせしないと、そういう誤解が出てくるのではないか。その点よろしくお願いしたい。
- (事務局発言) おっしゃるとおり、どのように表記するかについては、方針の中に3校を閉じて新たな1校を設置すると書くとなれば、そのとおり記載したい。
- 行政が言ったように地域が学区を大事にしてくれればと思う。学区がちょっと柔らかくなりすぎている。2002年からのゆとり教育や週5日制、それが反映されて、学区の中にある公務員住宅や製紙住宅、地域ではないが、良い教育を受けさせたいという教育熱心な保護者も多い。その中で、学区があってないような今の状況は自由ではないか。行政の言うことは矛盾しているのでは。清至中は清至中として地域の子に来てもらうために教師・PTAで努力している。それでも足が遠のいてしまうのは前回の協議会だよりにあった2校案にするという表記、何回も出てきているが、保護者の立場として、協議会だよりに出ていることを打ち消すためにも、行政が小学校に行き保護者への安心感を持たせて欲しい。そうしないと子どもが離れていく一方。悪い噂が先行して、いくらがんばっても追いつかない。それを払拭するためにも、行政から王子第一小へ行って説明を。保護者も安心して、違う道を選べるのではないか。
- 協議会だよりは、あくまでも経過を報告しただけで、結論を書いたのではないのだが。
- それを見て皆判断している。これには承認しましたとなっている。普通の人は見ればそれではどこになるの、それでは広いところ、と。単純だが、実際のところそういうところが事実。
- 協議会だよりに表記しない、発行しない、となると密室で協議しているのかと、意見が言いたくても出せないではないかということもあるので、協議をしてこうなっていますとありのままに報告しているのだが。
- 承認されましたというのはおかしい。
- その件については前回の幹事会でも議論になり、教育委員会でも至らなかった点は申し訳ないとあったが。
- ここにいる皆は承知しているが、知らないのは一般の保護者。訂正の協議会だよりでも出るのか。決定したというように出ると、それに踊らされてしまうのが事実。
- (事務局発言) 協議会だよりについては、前回までの議論で何回か同じ話を頂き、同じ回答をしている。王子第一小に行き説明をという件では、王子第一小だけを特別伺って協議会の報告をすることは考えていない。豊川小・堀船小・柳田小・としま若葉小、どの学校でも、要望があれば伺う。ただ、こちらの学校は行き、あちらの学校は行かないというのはいかがかと考えている。今回、協議会だよりには協議会方針はそのまま掲載する。経過を全部掲載するのは無理だが、主な意見は記載したい。
- 話し合いの基本として、適正規模等審議会第二次答申、この中にブロック区域や、その分割、統合校は原則として新校とするなど記載されている。これはご存知か。

- (事務局発言) 統合ルールは要綱で定めてあるが、協議会報告に記載すべきということか。
- このようなことを委員は承知しているのか。
- (事務局発言) 第1回協議会全体会の時、適正規模等審議会第二次答申についてということでそこからスタートしている。なぜ協議会を始めるのかというときに、こういう経緯があってということの説明している。PTAにおいては担当が替わることがある、また、小学校が途中参加ということはあるが、資料は引き継がれるはず。中学校においては最初に説明をして、こういうルールもあると説明している。
- これを分かってないで今の議論をしているのではないか。
- この適正配置については当初は大反対だった。親にもあるが子どもたちにどれだけ波動があることか。ずっと小学校が統廃合だと言われた。皆さんの意識の中では、小さい学校は廃校なんですよ。皆さんの言っていることは分かる。自分の学校を一つにすることは身の切られる思いをすと思う。ただ、今の議論を聞いていると、私たちは何のために1年半話し合ってきたのか、腹立たしくて仕方ない。豊島北中は現実として100名を切る、どんな思いで子どもたちがいるか。統合がなければいいが、子どもの数は減っていく。子どもたちは、少なくなれば統合するんだとさめている。今いる友達関係を大事にして、地域の人たちとも協力してがんばって学校へ行っている。小学校でも、他の学校へ行っているケースはある。今後、そういう子どもを増やさないということが大事だと私は思う。どうせやるのだったら、今のうちに、統廃合ではなく同等の新しい学校づくりということを念頭に考えていきましょうと言ってきたし、そういう話をしてきた。それを、協議会は今まで公開されていたにも関わらず、最後にこういう話になるとは。複数クラスあるならいいが、私たちの学校は1クラスで、切羽詰っている。その辺のところを頭に入れて議論して頂きたい。子どもたちのために、これから先どうしたらいいのか、豊島地区の今後のことを考えて頂きたい。私も1年半学校を背負ってやってきた、いろんな意見があろう、それなら保護者の自宅に1軒1軒説明に行く、それくらいの覚悟でやっている。
- 今の審議を聞いてだが、豊島北中・清至中・豊島中・堀船中どこも同じ考えではないか。どこの学校がなくなる、残るという解釈が違う。新しい学校が1つ出来るという考え方でやっていけば、くどい様だがどこがなくなるどこが残ると考えると、母校は大事だから、となる。1つの中学校が豊島に出来ると受け取ったがどうか。
- おっしゃるとおり、吸収されるという考えではない。豊島地区の新しい中学校をどこに建てるのかということで、統廃合という言葉は不適切という印象。開かれた新しい豊島地区の中学校は何なのかと論議しなければいけなかったのが、何か統廃合となってきたのは反省するところ。最後になってこういうことを言うのは残念だが、統廃合ではなく新しい豊島の学校についての将来像を考えましょうということをも明らかにしたい。結論付けが遅くなったが、その点、座長として足らなかったと思う。
- 1年半論議に参加したが、要するにここにいる方々は当然、自分たちの母校は大切に思いがある、そういう個人的感情はあるが、この場に出てきて話し合っている方々はそれを超えて、豊島地区にどういう中学がいいかと議論してきたと思う。どこの中学が少ないとかそういう次元の話を今までしてきたかと思うと情けないというか、がっかりした。ここに話し合いをするならば、少なくとも、どこの中学が残るとかどこの敷地になるとかという

問題ではなく、子どもたちのためにどういう学校が必要か、クラブ活動が出来ない、公式試合に出られないということが解消される生徒数を確保できるような中学校にしようとか、そういう話なら別だが、どこが少ないという次元の話をしてきたのか、と。もっと地域で子どもをどういう中学に通わせたいかとPTAとして考えるのが筋、というのが思いだ。

- ずっと話を伺って思ったが、豊島地区3校は同じ地区だし、これからの子どものことを考えていてもらいたい。子どもが卒業すると学校に関わることは少なくなるが、今後のPTA役員の皆さんに今までの結果、主旨をキチンと伝えて継続していけるように、変な誤解のないように伝えていきたい。肝心なのはこれからで、その話し合い中にまたこの様な3校の誤解があるままに役員・委員での話し合いをすると、大人の出来事が以心伝心で子どもに影響する。キチンと出来るように考慮して場と資料の提供を教育委員会にお願いしたい。分かりやすい言葉で協議会だよりの作成をお願いしたい。
- この協議会についていろいろな意見はある。考えるべきことは子どもたちがどう環境で学習できるかが第一ではないか。勉強・部活にしろ、子どもたちがどうあるか。そこを見失わない様に論議してきたと信じている。やはり、それぞれ学校を思う気持ちはあろうが、優先すべきは子どもたちの教育環境のこと。資料についても、王子第一小の子が多い中で適正な教育環境かの疑問が投げかけられている。7ブロック8地域の中で3校が1校になるのはこの地域だけかもしれない。そうすると、王子第一小の危惧は、先生一人当たりの子が多いのではないか、目が届くのかという心配があって意見が出てくるかと思う。基本は子供のためにということでの発言かと思う。清至中の地域に住宅が出来ると、子どもが増える。3校を1校として、心配されていることが解消できるかどうかということがある。また、指定校変更基準が公開され、指定校変更は難しいのだろうと考えてそのまま地区の学校に通っていたが、公開されたことで多く変更するようになった。実際のところでは希望すれば認められる状況で、家庭の意向がとおる。それから、子どもたちの動きの件だが、学校がなくなる噂によっても例年どおり収まっているのか、素直に受け取れない。かなりの数を耳にしている。その言葉を聴くたびに悔しい思いをする。適切な情報管理が必要ではないか。また、確かな情報を提供する必要がある。清至中関係者が資料を提供したことは、その気持ちとして、清至中はそのまま残して、豊島中と豊島北中を豊島中の位置に配置して、という気持ちがあるのかと思う。そのあたりを含めた意見書かと思う。地域の方々、関係する保護者の方々、思いは子どもたちにキチンとした教育環境の中で勉強できるようにということでの発言と思う。
- (事務局発言) 今の話では、豊島地区3校を統合した場合、教育環境が悪いものになるという印象を与えるので、補足すると、資料では、3校を統合して13学級、堀船中を加えて18学級、適正規模は適正規模等審議会答申では中学校では15学級くらいまでだろうとしている。別の校長の話では18学級でも良いのではないかという意見もあり、13学級は適正規模の範囲である。子どもが増えているから統合して13学級が急に21学級になるかという、それはレアケースではないか。配付資料に書かれている私立進学20パーセント弱が公立ががんばり公立に戻るという点は望むところである。概算20パーセントとして、北区で1学年2000人、20パーセントで400人が私立に行く計算になる。中学校数20で割ると、全員公立に行くとして、1校当たり20名程度、1割が私立に行くとなると、1校当たり10名程度。思いは受け止めるが、データをキチンと見ると、別の視点もある。来

年度以降精査する場合に最新のデータで修正しながら考えていく。私どもの誠意は汲み取っていただきたい。

- まとめとして、適正配置であるということを明らかにしたい。統廃合ではなく、適正配置である。熱心な討議により良い報告書になると信じている。これで座長の職を終了する。
- (事務局発言) この地区に限らず、地域に大きな問題を投げかけたと思う。皆さん、議論を聴いても、実感されると思う。委員、特に幹事の皆さんにはご苦勞をおかけしたが、どこかの段階でやらなくてはならない過程であろうと考えている。適正規模の確保、校舎改築のこと、地域の協力を得ながら新しいものを作っていこうと考え、会議を開催し、今日のまとめとなった。平成17年度は行政の内部で協議し、案が出来たらあらためて何らかの形で相談させていただくことになると思う。統合校には確かに色々な課題がある。豊島東小と豊島西小が統合し、としま若葉小となった際、校長が最初にしたことは、朝礼で、青い水と黄色い水、2色の水を一緒にして黄緑の水にしたと聞く。二つの学校が合わさって、としま若葉小学校の若葉色の黄緑の水が出来ると、一緒にがんばっていこうよというメッセージ。子どもたちにとっても葛藤があったと思うが、このことである目標が出来たのではないかと考える。こういったことの真っ只中にある方は大変だが、乗り越えることが必要だし、そのために我々も努力していきたい。これからもご協力をお願いしたい。